

2022 年度 自己点検・評価報告書

学士課程教育機構評価分科会

(最終報告)

2023 年 2 月

基準4 教育課程・学習成果

2023年度カリキュラム改訂の検討を進めていることを念頭に、下記の内容について記入ください。

- ・ 学士課程教育（共通科目）のラーニング・アウトカムズは、大学の教育目標に基づき、適切に策定されているか。
- ・ ラーニング・アウトカムズに基づき、学士課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【1】2021年度の自己点検・評価で課題となった事項

2021年1月に行われた外部評価委員の指摘を総合すると、①建学の精神、②全学DP、③学部DP、④学部L0s、⑤アセスメント・ポリシー、⑥成績評価という6段階のレベルにおいて、(1)定義のあいまいさ、(2)学部間の不整合、(3)各段階間の整合性が問題点として指摘された。

問題点(1)から(3)について、全学と学部・研究科のポリシーの整合性を取るタイミングとして、2023年度に予定している学部のカリキュラム改正のタイミングが望ましいため、すでに各学部では2023年度のカリキュラム改正に向けて、現行のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを基本とした検討が進められている状況ではあったが企画調査室、学長室会議等で、全学ディプロマ・ポリシーの見直しについて検討を行い、2021年11月30日の内部質保証推進委員会にて、全学ディプロマ・ポリシーの改訂版を提示、各学部に対しては学部ディプロマ・ポリシーの検討を依頼した。

22年度から共通科目の新カリキュラムがスタートするにあたり、共通教育のL0については学部のDP改訂に先立ち、更新した。

【2】2022年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

2022年度については、各学部において、全学ディプロマ・ポリシー改訂版に基づいた学部ディプロマ・ポリシーの検討を進め、2022年4月の教務委員会にて、カリキュラムマップを含めた新カリキュラム一式を報告した。その後も検討、協議を継続し、2022年8月の大学教育研究評議会にて審議・決定する予定である。

<最終報告までの達成目標>

2022年度中に、全学ディプロマ・ポリシー改訂版に基づいた学部ディプロマ・ポリシーを確定させる。各共通科目のL0との整合性も含め、23年度には学部教育と共通教育が連動して全学DP達成を進める絵図が描けるように各学部のカリキュラムマップを精査する。

【3】2022年度の方針・改善計画と2023年度以降の方針

【2022年度の方針・改善計画】

2022年8月の大学教育研究評議会を経て、各学部のディプロマ・ポリシーが確定した。

学部教育と共通教育が連動して全学DP達成を進める大きな絵図は描けなかったが、世界市民教育にか

かるカリキュラムマップを作成することができた。これを参考に、今後、全学と学部の連動が見えるカリキュラムマップの作成を試みたい。

【今後の課題および 2023 年度以降の方針】

2023 年度以降は、新たに策定された全学ディプロマ・ポリシーに基づいて、「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」それぞれのレベルでのアセスメントを行っていく。

基準 6 教員・教員組織

- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
- ・ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2021 年度の自己点検・評価で課題となった事項

2021 年度の取組として（1）年間 4 回の FD・SD セミナーと 1 回の教育フォーラムを開催した。（2）2021 年 9 月 4, 5 日の 2 日間でファカルティ・ディベロッパー研修を開催した。（3）2021 年 7 月 30 日、11 月 25 日の計 2 回、ティーチング・ポートフォリオ作成のためのメンター研修を行った。（4）1 月に開催された全学 FD・SD 委員会にて、学部執行部向けの研修として FD 会議の開催が提案・承認された。これは学部執行部向けに開催するもので、第 1 回目は 3 月下旬に開催された。

【2】2022 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

2022 年度以降については、1 月の FD・SD 委員会で承認された教育・学習支援センターの新たな活動方針を元に、各学部執行部が FD の主体となって学部の FD を推進していける体制を構築することを目標に各種イベントを設定・調整している。年 1 回開催の教育フォーラムを軸に、FD・SD セミナーについては学部の要請を踏まえて、学期に 1~2 回開催する方針で、春学期については研究推進センターとの共催によるセミナーを開催した。

その他、対象者を限定した小規模な勉強会やセンター員向けの勉強会として、以下のような CETL 勉強会を企画・実施している。

- ・ センター員/AL マスター向け質問会議ワークショップ
- ・ TP メンター研修
- ・ CETL センター員向け FD リーダー研修

2021 年度から 3 カ年計画で取り組み始めたティーチング・ポートフォリオについては、今年度が 2 年目となり、各学部が目標達成に向けて取り組んでいる。

WLC, SPACe で採用する助教については CETL が提供するスタートアップ研修を利用し、学部の新任教員との交流も含め、大学教員としてもスムーズな適応を進めていく。

<最終報告までの達成目標>

10月1日に予定されている教育フォーラム、また、秋学期のFD・SDセミナーの開催。
ティーチング・ポートフォリオの来年度100%達成に向け、今年度中に5~6割の教員の実施。

【3】2022年度の実施の点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の実施の点検】

10月1日には予定通り創価大学第9回教育フォーラム（第20回FD・SDフォーラム）を開催した。
午前中に開催した全体会では、関西国際大学の濱名学長を基調講演講師としてお迎えし、学内外から約130人が参加した。

また、午後には、以下の通り、学部等の分科会を行われ、他学部の教員も参加して、活発な意見交換が行われた。

法学部「法学部におけるSDGs・ESG教育」

文学部「文学部メジャー制が目指すもの」「文学部における初年次教育の再編：学生の学びをいかに確保するか」

CETL「LTD話し合い学習法の基礎と活用」

障害学生支援室「アドバイザー研修」

また、秋学期には2回のFD・SDセミナーを開講した。

10月28日 「論理的に考え、表現する力を育む」 桜美林大学 井下千以子氏

11月16日 「レポート課題をどのように設定するか？」 大阪成蹊大学 成瀬尚志氏

ティーチング・ポートフォリオについては、2021年度は52名、2022年度は66名が作成に取り組んだ。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

FD・SD委員会では3年ごとに3ヶ年計画を策定しており、2023年度からは新たな3ヶ年計画に基づいた取組を推進する。

2023年度～2025年度は中期目標を「人間教育のリフレクションシステムの構築を通じた相互評価文化の定着」と掲げた。

ティーチング・ポートフォリオ取組3年目となる2023年度には100%達成を目指して取組を進めていく。

WLCの助教採用が春秋に分かれているため、秋採用の助教についてはCETLの年間支援計画からずれてしまい、系統的なFDが難しい。また、日本語を母語としない助教あるいは語学教員に対してはWLCが独自で行うFDに限定されてしまい、必ずしも全学的な動きの共有がスムーズとはなっていない。

基準7 学生支援

- ・ 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ・ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2021年度の自己点検・評価で課題となった事項

2021年度も毎週1回の定例会を軸に、総合学習支援センター（SPACE）センター長、副センター長、事務職員が集まり、SPACEの運営について検討を行ってきた。SPACEの各種サービスは、2020年度に引き続きオンライン提供を中心に行ってきた。

学生委員より、1年生は学内のどこにどのようなサービスがあるかが分からず、サービスを活用しきれないと感じるため、そういう点でのサポートの強化をお願いしたいとの意見があった。

【2】2022年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

SPACE学習セミナーについて、学期はじめには履修に関するセミナーを行うなど系統立てて行う計画を立てており秋学期から実施していく予定である。また、この春学期からは学習セミナーの案内をポータルサイトトップページにバナー表示することで、より学生に周知できるようにした。

加えて、2022年度は、SPACEにおける各種サービスがオンラインから対面に戻りつつあるため、改善、見直しの参考となるサービスの効果検証を行っていく。

<最終報告までの達成目標>

SPACEにおける各種サービス（ヘルプデスク、オアシス、日本語ライティングセンター、レファレンス、WLC語学プログラム）の利用状況の経年変化を集計する。

【3】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度取組みの点検】

2022年度のSPACE学習セミナーについては、春学期15回、秋学期15回の計30回開催した。内容については学生のニーズも確認しつつ、ICT、タイムマネジメント、GPA向上、留学・語学など多岐にわたるテーマで行った。（春学期の取組については、学士課程教育機構で年2回発行しているニュースレター第24号に詳細を記載）

【今後の課題および2023年度以降の方針】

2023年度からは各種サービスも対面の割合が増えるため、円滑な運営を行っていく。また、学生課、教務課との連携を取りながら、学生のニーズに合ったSPACEの学習支援サービスの提供に取り組む。英語学習に象徴されるが、学生の語学力および学習意欲の低下が顕著となり、シュリーマン賞を取るような語学優秀層とTOIEC200点、300点台に止まってしまう下位層の二極に対するサービスの在り方

を検討する時期に来ていると思われる。

学生の意見聴取

- ・ 学士課程教育、各種学習支援に関すること
- ・ 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
- ・ 学生生活アンケートから見える本学の傾向性について

【1】2021年度の意見聴取をもとに実施した検討や取り組みの内容

昨年も DP や LOS については研修会の際に認識したという意見が多く、今後は学部オリエンテーション、ガイダンス、初年次セミナー等で周知したいという案が出た。学部で行うガイダンス等では、学部の DP、LOS の話は出るが、全学の DP や LOS についてはなかなか周知する機会がないため引き続き検討することになった。

また、1年生は学内のどこにどのようなサービスがあるかが分からず、サービスを活用しきれていないと感じるため、そういう点でのサポートの強化をお願いしたいとの意見があった。これについては SPACe 学習セミナーについて、学期はじめには履修に関するセミナーを行うなど系統立てて行う計画があり、この春学期からは学習セミナーの案内もポータルサイトトップページにバナー表示しているとの説明があった。

【2】2022年度の意見聴取を踏まえた2023年度以降の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

学生への DP や LOS の周知については、ポータルサイトでの LOS の見える化や、相互評価の仕組みの構築、学内のアンケート項目への追加など、より学生が DP や LOS を身近に感じられる方策を準備していく。

学生（特に新生、学業や生活で悩んでいる学生）のためのセーフティネットの拡充について、SPACe ヘルプデスクのサービスの充実について、学内のアンケートなどの結果もふまえて検討していく。